

福島県病害虫防除所より6月12日付けで「令和2年度病害虫防除情報」が発表されました。春型枝病斑の発生に引き続き、中通り地方でモモせん孔細菌病の新梢葉及び果実での発生が多くなっています。

梅雨に入り、降雨が多く、ますます感染が拡大しやすい時期となりますので、防除対策を確実に実施しましょう。

1 モモせん孔細菌病の発生状況

6月上旬の調査において、新梢葉及び果実の発生ほ場割合、発病葉率はいずれも平年より高く、**過去10年で最も高い数値です**（図1、図2）。

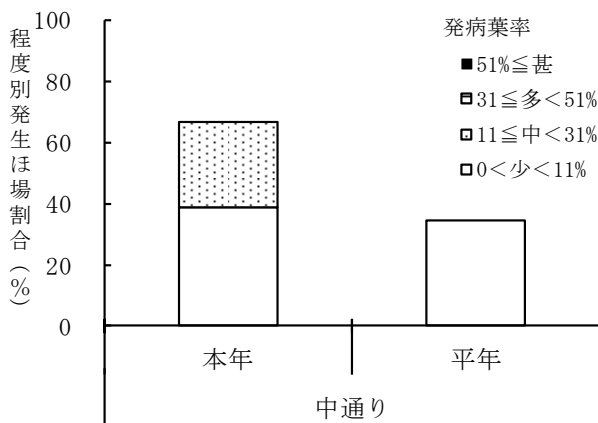


図1 モモせん孔細菌病の発生状況（新梢葉）
（調査地点：県北地区9か所、伊達地区9か所）

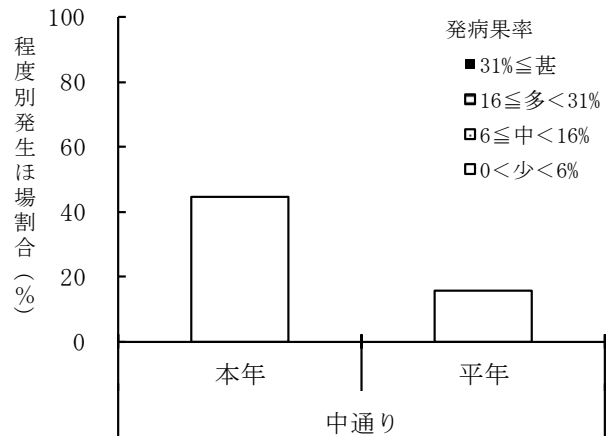


図2 モモせん孔細菌病の発生状況（果実）
（調査地点：県北地区9か所、伊達地区9か所）

2 防除対策

東南北部は6月11日に梅雨入りしたとみられ、東北地方1か月予報（仙台管区气象台 令和2年6月11日発表）では、平年と同様に曇りや雨の日が多く、向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%と予測され、モモせん孔細菌病のさらなる感染拡大が懸念されます。

物理的防除と耕種的防除、薬剤防除を徹底し、総合的な対策を行いましょう。

(1) 物理的防除

発生拡大が懸念される園地では、**仕上げ摘果終了後速やかに袋掛けを行い**、果実被害の低減を図りましょう。

(2) 耕種的防除

- ・ **園内を再度よく観察し、春型枝病斑、発病葉、発病果等の発生部位を徹底して除去してください。**
- ・ 現在、新梢葉が茂り、春型枝病斑を見つけにくい状態ですが、**春型枝病斑は新梢葉や果実への伝染源となるので、ほ場内を再度よく観察し、芽枯れや枯れ枝など疑わしい枝も含め徹底して切除してください。**複数回園地を見回り、樹冠内部も含めて見落としのないように丁寧に確認してください。
- ・ **枝病斑を切除する場合は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部まで切り戻してください**（4月17日付け果樹情報特別号参照）。

・被害拡大防止のため、発病枝の取り残しに注意しましょう。

特に、樹冠上部の発病枝の取り残しはその直下での被害が大きくなるため、見落としが無いように注意が必要です（図3）。

・発病葉や発病果実は二次伝染源となりますので、見つけしだい枝病斑とともに徹底的に除去し、園外に持ち出すなど適切に処分してください。

(3) 薬剤防除

薬剤散布は、散布間隔が空きすぎないように注意し、10日間隔で実施してください。降雨が予想される場合は、降雨前の予防散布に努めてください。その際は、薬剤の使用濃度、使用回数、収穫前日数、農薬飛散防止に十分注意しましょう。また、同一薬剤の連用は耐性菌の出現のリスクが高まるので、連用せずに薬剤のローテーションにより防除を行ってください。

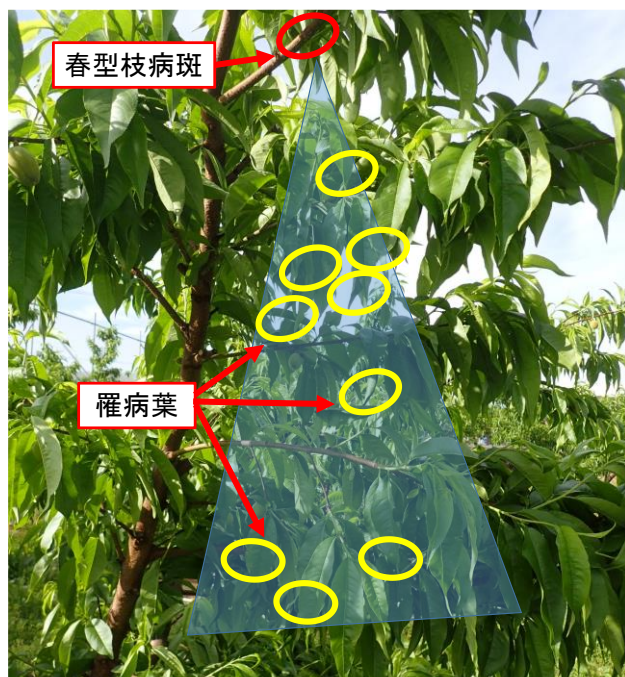


図3 モモせん孔細菌病の春型枝病斑とその直下の新梢葉での発生

写真提供：福島県農業総合センター
果樹研究所

**速やかに袋掛けを行い、果実感染を低減しましょう。
発病部位（枝、葉、果実）は確実に除去しましょう。**

梅雨時期のさらなる感染拡大が懸念されます。

園地を再度見回り、粘り強く徹底して発病部位を除去しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

